

東京芸術祭ファーム 事業計画

1. 事業枠組み：

(1) 主催

東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会、東京芸術劇場・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）〕※東京芸術祭 2021 実績

(2) 事業概要

東京芸術祭ファームは国際的な感覚を身につけ世界で活躍する人材の育成を目指しており、2017 年から実施している東京芸術祭の人材育成プログラム APAF—アジア舞台芸術ファーム (Asian Performing Arts Farm) およびフェスティバル/トーキョーの研究開発・教育普及プログラムの後継事業である。ディレクターは APAF に引き続き多田淳之介（演出家）が務め、共同ディレクターとして長島確が就任している。

本事業の目的は新作創作や公演といった通常の創作活動ではなく、多様なプログラムのなかで、地域や分野を超えて他者と協働することで、参加者が自身の地域性や専門性を発揮し、それぞれが力量を伸ばしていくことである。また、本事業を通して、国際的な交流と協働を継続するための持続可能な環境作りも目指している。

(3) プログラムディレクター

ファームディレクター 多田淳之介

1976 年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品まで幅広く手がけ、現代社会に於ける当事者性をアクチュアルに問い続けている。子どもや演劇を専門としない人との活動、韓国、東南アジアとの海外コラボレーションも多数手がけ、演劇の協働力を基にボーダーレスに活動する。2010 年より富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内歴代最年少で就任、3 期 9 年間務める。2014 年「가모메 カルメギ」が韓国の第 50 回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。青年団演出部。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。

ファーム共同ディレクター 長島確

ドラマトゥルク。立教大学文学部フランス文学科卒。大学院在学中、ベケットの後期散文作品を研究・翻訳するかたわら、字幕オペレーター、上演台本の翻訳者として演劇に関わる。その後、日本におけるドラマトゥルクの草分けとして、さまざまな演出家や振付家の作品に参加。近年はアートプロジェクトにも積極的に関わる。参加した主な劇場作品に『アトミック・サバイバー』（阿部初美演出）、『4.48 サイコシス』（飴屋法水演出）、『フィガロの結婚』（菅尾友演出）、『効率学のススメ』（ジョン・マグラール演出）、『DOUBLE TOMORROW』（ファビアン・プリオヴィル演出）ほか。主な劇場外での作品・プロジェクトに「アトレウス家」シリーズ、『長島確のつくりかた研究所』（ともに東京アートポイント計画）、「ザ・ワールド」（大橋可也&ダンサーズ）、『←（やじるし）』（さいたまトリエンナーレ 2016、さいたま国際芸術祭 2020）、『半七半八』（中野成樹＋フランケンズ）、『まちと劇場の技技（わざわざ）交換所』（穂の国とよはし芸術劇場 PLAT）など。訳書に『新訳ベケット戯曲全集』（監修・共訳）ほか。フェスティバル/トーキョー18～20 ディレクター。東京藝術大学音楽環境創造科特任教授。

(4) 主な会期

2022 年 10 月 4 日～10 月 10 日（予定）

(4) 主な会場

オンライン及び東京芸術劇場ほか

(5) 主たる期間のスケジュール (予定)

日 程	場所・会場	内 容
2022 年 5 月	オンライン	アートキャンプ参加者、インターン、アシスタント募集 国際共同制作ミーティング開始
7 月	オンライン	アートキャンプ参加者選考会・決定
8 月	オンライン	アートキャンプ開始 国際共同制作オンライン稽古開始
9 月 11 日		国際共同制作海外参加者来日 (14 日間隔離が必要な場合)
9 月 26 日～10 月 3 日	水天宮ピット	国際共同制作オフライン稽古
9 月 23 日～12 月 11 日	東京芸術劇場、オンライン他	ディレクタートーク
10 月 4 日～10 月 10 日 (うち 3 日間程度)	東京芸術劇場アトリエイースト、アトリエウエスト	国際共同制作の発表・上演
10 月中旬	オンライン	アートキャンプの成果発表
10 月下旬	オンライン	国際共同制作、アートキャンプ共に修了式および振り返りミーティング

2. 内 容:

(1) 国際共同制作 (ワークインプログレス [2021 年度の Farm-Lab Exhibition にあたるもの])

ファームディレクターが昨年の Asian Performing Arts Camp の参加者などから 2 名の演出家・アーティスト (企画の主たる者) を指名する。各アーティストを中心に出演者や共同スタッフを集めチームを編成。内訳は日本を含むアジアから 2～5 名程度。このチームによってオリジナル作品の 30 分程度のワークインプログレスを発表する。作品作りを模索する過程で、各参加者が従来慣れている環境や方法論から離れ、異なる演劇のあり方や創作方法について気づき、発見しながら、自分たちの集団的創作を試みる。

また、成果発表においては、観客などからフィードバックをもらい、作品へと反映していく。

① オンラインディスカッション期

[日 程] 2022 年 5 月以降 9 月まで 不定期

主たるアーティストがプランを練る期間。ディレクターやファームチーフマネージャーと相談しながら他のスタッフや出演者も選出していく。オンライン会議システムなどを活用する。

② オフライン稽古期

[日 程] 2022 年 9 月 26 日～10 月 3 日

[会 場] 水天宮ピット (東京都中央区)

[参加者] ①で決めた出演者及びスタッフ全員が揃い、ディスカッション、リサーチ、及び稽古を積み重ね最終発表への準備を行う。

③ 上演発表および公開ディスカッション

[日 程] 2022 年 10 月 4 日～10 月 10 日のうち最低 3 日以上

[会 場] 東京芸術劇場アトリエイーストまたはアトリエウエスト

[参加者] 同上

(2) アートキャンプ [2021 年度の Asian Performing Arts Camp にあたるもの]

未来の舞台芸術界を担う新しい才能を発掘・育成するため、日本を含むアジアを拠点に活動する演出家、振付家、劇作家、ドラマツルクなど舞台芸術の企画において中心的な役割を果たす作り手を参加者とする。選出方法は公募。

ディスカッションやレクチャーを積み重ね、作り手としての基盤を養う。参加者自身も公開ワークショップやトークを行い、海外での受け入れられ方や反応を体験するアートキ

キャンプ。

様々な文化背景の参加者が集まることで文化的な差異に対する理解や扱い方を一層深め、日常の価値観を超えた表現の在り方を発見し、異なる文化背景の作り手や社会に対して作品を提示していく力を身に着ける。期間最後にはプレゼンテーションなど公開での成果発表を行う。このプログラムは原則英語で実施する。

また、ファシリテーターを複数名配置し、プログラムの構成から参加者選定、参加者たちの取りまとめ、最終プレゼンテーションへのガイド等を一貫した体制で密度の高いプログラムとする。

〔日 程〕 2022 年 8 月～10 月（最終成果発表を「2. 主な会期」内で実施）

〔ファシリテーター〕 未定

〔参加者〕 7～9 名。アジア全域から公募し、ファームディレクター、ファーム共同ディレクター、ファームチーフマネージャー及びファームファシリテーターが審査する

〔講 師〕 未定。国際的に活躍するアーティストほか

〔会 場〕 オンライン実施（最終発表の形態については未定）

（3）ディレクタートーク

ファームディレクター、ファーム共同ディレクターが、国内外のフェスティバルディレクターや芸術監督とディスカッションやレクチャーを積み重ね、フェスティバルディレクターや芸術監督になるための資質や知識について思考・検証する。本事業を通して、フェスティバルディレクターや芸術監督に必要な資質や職能を明らかにし、将来的に東京芸術祭ファームにおいて次世代のフェスティバルディレクターや芸術監督を担う新しい才能の育成を目指す。

〔日 程〕 2022 年 9 月～12 月（東京芸術祭 2022 会期内で実施）5 回程度を予定

〔ファシリテーター〕 未定

〔参加者〕 20 名。

〔講 師〕 未定。国際的に活躍するアーティストほか

〔会 場〕 東京芸術劇場、オンライン他

（4）インターンやアシスタントの配置

国際共同制作の体験をキャリアの早い段階で経験し、自身の活動についての視野を広げていく機会として、上記（1）（2）の現場に若手スタッフやアーティストを受け入れ、育成の機会とする。

- ① インターン・アーティスト（仮）〔2021 年度の Young Farmers Forum にあたるもの〕
海外での活動が未経験または浅い日本国内で活動する 20 代の若手アーティストが、国際共同制作を行う上での自ら目標や課題を設定し、本事業の国際的な創造の現場に参加する。プログラムの参加を通じて、海外アーティストや同世代の参加者同士の交流を図り、これからの活動につながる新たな視座の獲得を目指す。

〔日 程〕 上記（1）と（2）の活動期間

〔参加者〕 日本国内で活動する舞台芸術の若手アーティスト、スタッフを公募。5 名程度

〔会 場〕 オンライン及び本事業の稽古場や発表会場

- ② 制作アシスタント

海外での活動が未経験または浅い日本国内で活動する若手制作者を対象に、本事業の国際的な制作現場での制作補助業務を通して、国際共同制作の知見を深める。また、参加者が海外アーティストや制作担当者と交流を図ることで、新たな活動につながる機会とする。なお、参加者は業務として有償とする。

〔日 程〕 上記（1）と（2）の活動期間

〔参加者〕 日本国内で活動する若手制作者 1～5 名。

〔会 場〕 オンライン及び本事業の稽古場や発表会場

③ 通訳アシスタント

舞台芸術に特化した通訳になるための実践の機会として、当事業の通訳担当者などの補助業務を行いながら、必要な知識やスキル学ぶ。参加者は業務として有償とする。

[日 程] 上記（１）と（２）（３）の活動期間

[参加者] 舞台芸術の通訳を志す方。1～4名。

[メンター] 未定

[会 場] オンライン及び当事業の稽古場や発表会場

④ ライターアシスタント

舞台芸術に特化したライターになるための実践の機会として、当事業の広報担当者などの補助業務を行いながら、必要な知識やスキル学ぶ。参加者は業務として有償とする。

[日 程] 上記（１）と（２）（３）の活動期間

[参加者] 舞台芸術のライターを志す方。1～4名。

[メンター] 未定

[会 場] オンライン及び当事業の稽古場や発表会場

（４）その他

当事業は異文化圏にある大勢の人々が集まる事業であり、価値観や常識の相違を理解しあいながら協働していくことが前提となる。この具体的な実施のため独自のガイドラインの設置やコミュニケーションデザインという考え方を取り入れ実施する。また、当事業参加者以外がプログラムのプロセスを見学するビジター制度も合わせて実施すること。

以 上